



InterSafe WebFilter

エクスポート/インポート手順

Ver5.0 – Ver7.0 用

目次

1. はじめに	3
コマンドの使用方法	3
グループ記述ファイルについて	3
2. エクスポート	4
エクスポート可能な項目について	4
amsuser コマンド	4
amsip コマンド	5
amsexuser コマンド	5
amsgroup コマンド	6
amsurl コマンド	6
amsrule コマンド	6
amsschedule コマンド	7
amscatmsg コマンド	7
amsgcatepostsize コマンド	8
amsucatepostsize コマンド	8
3. インポート	9
インポート可能な項目について	9
amsgroup コマンド	9
amsuser コマンド	11
amsip コマンド	12
amsexuser コマンド	12
amsrule コマンド	12
amsschedule コマンド	14
amsurl コマンド	15
amscatmsg コマンド	16
amsgcatepostsize コマンド	16
amsucatepostsize コマンド	16

1.はじめに

本マニュアルでは、InterSafe WebFilter(以下 InterSafe と記載)のコマンドでエクスポート/インポートする場合の手順・注意点について説明をしています。なお、本マニュアルは InterSafe Ver5.0 から Ver7.0 を対象としており、Ver3.5 以前のバージョンではご利用いただけません。

コマンドの使用方法

コマンドは次のディレクトリで実行してください。

WindowsOS の場合 : <InterSafe 導入フォルダ>%bin

デフォルトは「C:\InterSafe%bin」です。

LinuxOS の場合 : /<InterSafe 導入ディレクトリ>/bin

デフォルトは「/usr/local/intersafe/bin」です。

SolarisOS の場合 : /<InterSafe 導入ディレクトリ>/bin

デフォルトは「/opt/intersafe/bin」です。

- 操作手順の中に、InterSafe のマニュアルを参照する説明がありますので、InterSafe の管理者マニュアルを準備してください。
- 異バージョン間の InterSafe でのエクスポート/インポートはできません。必ず同じバージョンの InterSafe でエクスポート/インポートを行ってください。
- エクスポート/インポート時は必ずファイルの文字コードを指定します(encoding オプション)。エンコード形式の指定が間違っていると正しくファイルを読み込むことができませんので注意してください。本マニュアルでは UTF-8 を指定します。

グループ記述ファイルについて

コマンドによっては、実行時対象となるグループを事前に「グループ記述ファイル」として作成しておくことで、グループを限定してコマンドを実行することが可能です。

本マニュアルでは、グループ記述ファイル名を「gkijutsu.txt」として説明します。

グループ記述ファイルは以下のようなフォーマットでテキストファイルとして作成してください。

```
営業部
総務部¥管理課
システム大学¥大学院¥情報処理研究室
```

- グループは 1 行につき、1 グループを記述します。
- 上位グループが存在する場合は、第 1 階層から「¥」または「\」（バックスラッシュ）で区切って入力します。

2. エクスポート

ここでは、InterSafe でのエクスポート作業について説明します。

エクスポート可能な項目について

InterSafe では以下の項目についてエクスポートが可能です。

- エクスポートはマスタサーバでのみ実行可能です。

表 2-1

コマンド	内容	備考
amsuser	アカウント管理	
amsip	IP アドレスユーザの管理	
amsexuser	例外ユーザの管理	
amsgroup	グループ管理	
amsurl	例外 URL 設定	
amsrule	フィルタリングルール管理	
amsschedule	スケジュール管理	
amscatemsg	カテゴリ別規制メッセージの管理	Ver5.0 SP2 以降で追加
amsqcatepostsize	カテゴリ別書き込み規制サイズ（グループ用）の管理	Ver6.5 以降で追加
amsucatepostsize	カテゴリ別書き込み規制サイズ（例外ユーザ用）の管理	Ver6.5 以降で追加

amsuser コマンド

■ フォーマット

```
amsuser -export ファイル名 [-g グループ記述ファイル名] -encoding EUC|SJIS|UTF8
```

■ コマンド実行例 1

InterSafe に登録されている全ユーザを、「user.txt」にエクスポートする場合

```
amsuser -export user.txt -encoding UTF8
```

■ コマンド実行例 2

InterSafe の営業部グループに登録されているユーザを、「Sales_user.txt」にエクスポートする場合

グループ記述ファイルの内容

```
営業部
```

```
amsuser -export Sales_user.txt -g gkijutsu.txt -encoding UTF8
```

amsip コマンド

■ フォーマット

```
amsip -export ファイル名 [-g グループ記述ファイル名] -encoding EUC|SJIS|UTF8
```

■ コマンド実行例 1

InterSafe に登録されている全 IP アドレスユーザを、「ip.txt」にエクスポートする場合

```
amsip -export ip.txt -encoding UTF8
```

■ コマンド実行例 2

InterSafe の総務部Y管理課グループに登録されている IP アドレスユーザを、「kanri_ip.txt」にエクスポートする場合

グループ記述ファイルの内容

```
総務部Y管理課
```

```
amsip -export kanri_ip.txt -g gkijutsu.txt -encoding UTF8
```

amsexuser コマンド

■ フォーマット

```
amsexuser -export ファイル名 [-g グループ記述ファイル名] [-ip] -encoding EUC|SJIS|UTF8
```

- [-ip]オプションは Ver6.0 以降から有効です。Ver5.0 で IP アドレス(範囲指定含め)を例外ユーザに設定している場合、管理画面より例外指定している IP アドレスを控えておくなどしてください。

■ コマンド実行例 1

InterSafe に登録されている例外ユーザを、「exuser.txt」にエクスポートする場合

```
amsexuser -export exuser.txt -encoding UTF8
```

■ コマンド実行例 2

InterSafe の営業部グループに登録されている例外ユーザを、「Sales_exuser.txt」にエクスポートする場合

グループ記述ファイルの内容

```
営業部
```

```
amsexuser -export Sales_exuser.txt -g gkijutsu.txt -encoding UTF8
```

■ コマンド実行例 3

InterSafe に登録されている IP アドレスの例外ユーザを、「exuserip.txt」にエクスポートする場合

```
amsexuser -export exuserip.txt -ip -encoding UTF8
```

amsgroup コマンド

■ フォーマット

amsgroup -export ファイル名 -encoding EUC|SJIS|UTF8

■ コマンド実行例

InterSafe に登録されているグループを、「group.txt」にエクスポートする場合

```
amsgroup -export group.txt -encoding UTF8
```

- グループごとの規制メッセージはエクスポートされません。

amsurl コマンド

■ フォーマット

amsurl -export ファイル名 [-g グループ記述ファイル名] -encoding EUC|SJIS|UTF8

■ コマンド実行例 1

InterSafe に登録されている全グループの例外 URL を、「url.txt」にエクスポートする場合

```
amsurl -export url.txt -encoding UTF8
```

■ コマンド実行例 2

InterSafe のシステム大学¥大学院¥情報処理研究室グループに登録されている例外 URL を、「u_url.txt」にエクスポートする場合

グループ記述ファイルの内容

```
システム大学¥大学院¥情報処理研究室
```

```
amsurl -export u_url.txt -g gkijutsu.txt -encoding UTF8
```

amsrule コマンド

■ フォーマット

amsrule -export ファイル名 [-g グループ記述ファイル名] -encoding EUC|SJIS|UTF8

■ コマンド実行例 1

InterSafe に登録されている全グループのルールを、「rule.txt」にエクスポートする場合

```
amsrule -export rule.txt -encoding UTF8
```

■ コマンド実行例 2

InterSafe の営業部グループに登録されているルールを、「Sales_rule.txt」にエクスポートする場合

グループ記述ファイルの内容

```
営業部
```

```
amsrule -export Sales_rule.txt -g gkijutsu.txt -encoding UTF8
```

- 最低基準設定はエクスポートされないため、予め管理画面より最低基準に設定されているルールを控えておくなどしてください。

amsschedule コマンド

■ フォーマット

```
amsschedule -export ファイル名 [-g グループ記述ファイル名] -encoding EUC|SJIS|UTF8
```

■ コマンド実行例 1

InterSafe に登録されている全グループのスケジュールを、「schedule.txt」にエクスポートする場合

```
amsschedule -export schedule.txt -encoding UTF8
```

■ コマンド実行例 2

InterSafe の営業部グループに登録されているルールを、「Sales_sche.txt」にエクスポートする場合

グループ記述ファイルの内容

```
営業部
```

```
amsschedule -export Sales_sche.txt -g gkijutsu.txt -encoding UTF8
```

amscatemsg コマンド

■ フォーマット

```
amscatemsg -export ファイル名 [-g グループ記述ファイル名] -encoding EUC|SJIS|UTF8
```

■ コマンド実行例 1

InterSafe に登録されている全グループのカテゴリ別規制メッセージを、「catemsg.txt」にエクスポートする場合

```
amscatemsg -export catemsg.txt -encoding UTF8
```

■ コマンド実行例 2

InterSafe の営業部グループに登録されているカテゴリ別規制メッセージを、「Sales_msg.txt」にエクスポートする場合

グループ記述ファイルの内容

```
営業部
```

```
amscatemsg -export Sales_msg.txt -g gkijutsu.txt -encoding UTF8
```

amsgcatepostsize コマンド

- amsgcatepostsize コマンドは、squid 版では使用できません。

■ フォーマット

amsgcatepostsize -export ファイル名 [-g グループ記述ファイル名] -encoding EUC|SJIS|UTF8

■ コマンド実行例 1

InterSafe に登録されている全グループのカテゴリ別書き込み規制サイズを、「gcatepostsize.txt」にエクスポートする場合

```
amsgcatepostsize -export gcatepostsize.txt -encoding UTF8
```

■ コマンド実行例 2

InterSafe の営業部グループに登録されているカテゴリ別書き込み規制サイズを、「Sales_gpsize.txt」にエクスポートする場合

グループ記述ファイルの内容

営業部

```
amsgcatepostsize -export Sales_gpsize.txt -g gkijutsu.txt -encoding UTF8
```

amsucatepostsize コマンド

- amsucatepostsize コマンドは、squid 版では使用できません。

■ フォーマット

amsucatepostsize -export ファイル名 [-g グループ記述ファイル名] -encoding EUC|SJIS|UTF8

■ コマンド実行例 1

InterSafe に登録されている全てのグループの例外ユーザのカテゴリ別書き込み規制サイズを、「ucatepostsize.txt」にエクスポートする場合

```
amsucatepostsize -export ucatepostsize.txt -encoding UTF8
```

■ コマンド実行例 2

InterSafe の営業部グループに登録されているカテゴリ別書き込み規制サイズを、「Sales_upsize.txt」にエクスポートする場合

グループ記述ファイルの内容

営業部

```
amsucatepostsize -export Sales_upsize.txt -g gkijutsu.txt -encoding UTF8
```

3.インポート

ここでは、InterSafe でのインポート作業について説明します。

インポート可能な項目について

InterSafe では以下の項目についてインポートが可能です。

- インポートはマスタサーバでのみ実行可能です。

表 3-1

コマンド	コマンド	内容
amsgroup	グループ管理	
amsuser	アカウント管理	
amsip	IP アドレスユーザの管理	
amsexuser	例外ユーザの管理	
amsrule	フィルタリングルール管理	
amsschedule	スケジュール管理	
amsurl	例外 URL 設定	
amscatmsg	カテゴリ別規制メッセージの管理	Ver5.0 SP2 以降で追加
amsgcatepostsize	カテゴリ別書き込み規制サイズ（グループ用）の管理	Ver6.5 以降で追加
amsucatepostsize	カテゴリ別書き込み規制サイズ（例外ユーザ用）の管理	Ver6.5 以降で追加

コマンドによってはインポート作業の前にエクスポートした内容を、

- お客様が追加した記述
- デフォルトで設定されている記述

の 2 つにファイルに分ける必要があります。ファイルに分ける必要のある情報は、グループ、アカウント、ルール、スケジュールの 4 種です。編集作業を完了した状態でインポート作業を行います。

amsgroup コマンド

InterSafe にデフォルトで登録されているグループが含まれるインポート用のファイルを利用して、amsgroup コマンドでグループを登録するとエラーになります。そのため、エクスポートファイルよりお客様が追加したグループのみ抜き出してグループを登録する必要があります。また、デフォルトで登録されているグループの設定を変更している場合は、別途グループ設定の変更を行う必要があります。

例えば、amsgroup コマンドでエクスポートしたファイルの内容が下記のような場合、「デフォルトで設定されているグループ (modgroup.txt)」と「お客様が追加したグループ(addgroup.txt)」でファイルに分けます。

グループ名,グループコメント,IP アドレス規制フラグ,書き込み規制フラグ,上位参照フラグ,下位強制参照フラグ,オーバーライドフラグ,オーバーライドタイマー,オーバーライドパスワード,例外 URL 送信フラグ,例外 URL 下位参照フラグ,グループ ID,カテゴリ共通書き込み規制サイズ,マルチパートリクエスト規制フラグ,書き込み規制サイズ設定単位,HTTPS デコード設定

ヘッダ

"ルートグループ",,"0","0","0","0","0","120",,"0","1","-2","0","0","0","0"	}	デフォルトで設定されているグループ
"ADMIN",,"0","0","0","0","0","120",,"0","0","0","0","0","0"		
"GROUP",,"0","0","0","0","0","120",,"0","0","1","0","0","0","0"		
"LDAP","LDAP","0","0","0","0","1","120","pass","0","0","-10","0","0","0","0"		
"未登録ユーザ",,"0","1","0","0","0","120",,"0","0","-20","0","0","0","0"		
"alsi01",,"0","0","0","0","0","120",,"1","1","2","0","0","0","0"	}	お客様が追加したグループ
"営業部",,"1","0","0","0","0","120",,"0","1","3","0","0","0","0"		

- 「デフォルトで設定されているグループ」は上記の5つのみですので、それ以外のグループは「お客様が追加したグループ」となります。
- 分割したそれぞれのファイルで、1行目には以下のヘッダをつけてください。(Ver7.0の場合)
グループ名,グループコメント,IPアドレス規制フラグ,書き込み規制フラグ,上位参照フラグ,下位強制参照フラグ,オーバーライドフラグ,オーバーライドタイマー,オーバーライドパスワード,例外URL送信フラグ,例外URL下位参照フラグ,グループID,カテゴリ共通書き込み規制サイズ,マルチパートリクエスト規制フラグ,書き込み規制サイズ設定単位,HTTPSデコード設定

■ グループの新規作成フォーマット

```
amsgroup -add ファイル名 -encoding EUC|SJIS|UTF8
```

■ グループ追加のコマンド実行例

InterSafeに「addgroup.txt」を利用して、新規グループを追加する場合

```
amsgroup -add addgroup.txt -encoding UTF8
```

addgroup.txt ファイルの内容

```
グループ名,グループコメント,IPアドレス規制フラグ,書き込み規制フラグ,上位参照フラグ,下位強制参照フラグ,オーバーライドフラグ,オーバーライドタイマー,オーバーライドパスワード,例外URL送信フラグ,例外URL下位参照フラグ,グループID,カテゴリ共通書き込み規制サイズ,マルチパートリクエスト規制フラグ,書き込み規制サイズ設定単位,HTTPSデコード設定
"alsi01",,"0","0","0","0","0","120",,"1","1","2","0","0","0","0"
"営業部",,"1","0","0","0","0","120",,"0","1","3","0","0","0","0"
```

- グループID(12列目)はエクスポート時のIDが入ったままになっていますが、グループ追加時、自動で新しいIDが付与されるため、変更する必要はありません。

■ グループの設定変更フォーマット

```
amsgroup -mod ファイル名 -encoding EUC|SJIS|UTF8
```

■ グループの設定変更コマンドの実行例

InterSafeに「modgroup.txt」を利用して、デフォルトで設定されているグループに設定変更する場合

```
amsgroup -mod modgroup.txt -encoding UTF8
```

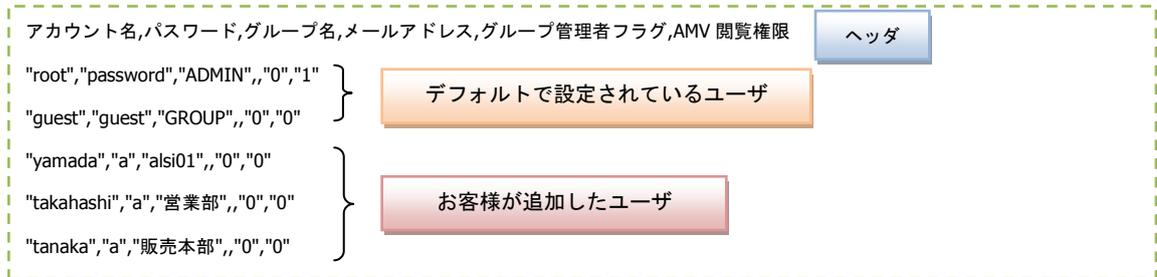
modgroup.txt ファイルの内容

```
グループ名,グループコメント,IPアドレス規制フラグ,書き込み規制フラグ,上位参照フラグ,下位強制参照フラグ,オーバーライドフラグ,オーバーライドタイマー,オーバーライドパスワード,例外URL送信フラグ,例外URL下位参照フラグ,グループID,カテゴリ共通書き込み規制サイズ,マルチパートリクエスト規制フラグ,書き込み規制サイズ設定単位,HTTPSデコード設定
"ルートグループ",,"0","0","0","0","0","120",,"0","1","-2","0","0","0","0"
"ADMIN",,"0","0","0","0","0","120",,"0","0","0","0","0","0","0"
"GROUP",,"0","0","0","0","0","120",,"0","0","1","0","0","0","0"
"LDAP","LDAP",,"0","0","0","0","1","120","pass",,"0","0","-10","0","0","0","0"
"未登録ユーザ",,"0","1","0","0","0","120",,"0","0","-20","0","0","0","0"
```

amsuser コマンド

InterSafe にデフォルトで登録されているユーザが含まれるインポート用のファイルを利用して、amsuser コマンドでユーザを登録するとエラーになります。そのため、エクスポートファイルよりお客様が追加したユーザのみ抜き出してユーザを登録する必要があります。また、デフォルトで登録されているユーザの設定を変更している場合は、別途ユーザ設定の変更を行う必要があります。

例えば、amsuser コマンドでエクスポートしたファイルの内容が下記のような場合、「デフォルトで設定されているユーザ(moduser.txt)」と「お客様が追加したユーザ(adduser.txt)」でファイルを分けます。



- 「デフォルトで設定されているユーザ」は上記の 2 つのみですので、それ以外のユーザは「お客様が追加したユーザ」となります。
- 分割したそれぞれのファイルで、1 行目には以下のヘッダをつけてください。(Ver7.0 の場合)
アカウント名,パスワード,グループ名,メールアドレス,グループ管理者フラグ,AMV 閲覧権限

■ ユーザ追加フォーマット

```
amsuser -add ファイル名 -encoding EUC|SJIS|UTF8
```

■ ユーザ追加のコマンド実行例

InterSafe に「adduser.txt」を利用して、ユーザを追加する場合

```
amsuser -add adduser.txt -encoding UTF8
```

adduser.txt ファイルの内容

```
アカウント名,パスワード,グループ名,メールアドレス,グループ管理者フラグ,AMV 閲覧権限
"yamada","a","alsi01",,"0","0"
"takahashi","a","営業部",,"0","0"
"tanaka","a","販売本部",,"0","0"
```

■ ユーザの設定変更フォーマット

```
amsuser -mod ファイル名 -encoding EUC|SJIS|UTF8
```

■ ユーザの設定変更コマンドの実行例

InterSafe に「moduser.txt」を利用して、デフォルトで設定されているユーザに設定変更する場合

```
amsuser -mod moduser.txt -encoding UTF8
```

moduser.txt ファイルの内容

```
アカウント名,パスワード,グループ名,メールアドレス,グループ管理者フラグ,AMV 閲覧権限
"root","password","ADMIN",,"0","1"
```

amsip コマンド

エクスポートファイルそのまま利用してインポートすることが可能です。

■ フォーマット

```
amsip -add ファイル名 -encoding EUC|SJIS|UTF8
```

■ コマンド実行例

InterSafe に「ip.txt」を利用して、IP アドレスを追加する場合

```
amsip -add ip.txt -encoding UTF8
```

amsexuser コマンド

エクスポートファイルそのまま利用して例外ユーザを設定することが可能です。

■ フォーマット

```
amsexuser -set ファイル名 [-ip] -encoding EUC|SJIS|UTF8
```

- [-ip]オプションは Ver6.0 以降から有効です。Ver5.0 で IP アドレス(範囲指定含め)を例外ユーザに設定している場合、予め管理画面より例外指定している IP アドレスを控えておき、管理画面上で再度設定してください。

■ 例外ユーザ(アカウント)設定のコマンド実行例

InterSafe に「exuser.txt」を利用して、例外ユーザ(アカウント)を設定する場合

```
amsexuser -set exuser.txt -encoding UTF8
```

■ 例外ユーザ(IP アドレス)設定のコマンド実行例

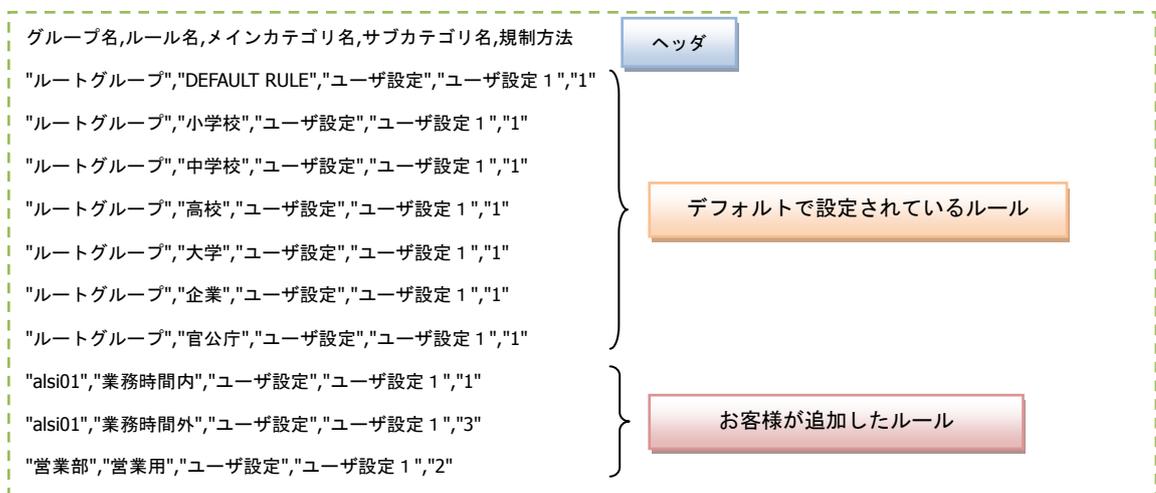
InterSafe に「exuserip.txt」を利用して、例外ユーザ(IP アドレス)を設定する場合

```
amsexuser -set exuserip.txt -ip -encoding UTF8
```

amsrule コマンド

InterSafe にデフォルトで登録されているルールが含まれるインポート用のファイルを利用して、amsrule コマンドでルールを登録するとエラーになります。そのため、エクスポートファイルよりお客様が追加したルールのみ抜き出してコマンドを実行する必要があります。また、規制内容が変更されているルールは、ルールの新規作成後に規制内容の変更作業を行う必要があります。

例えば、amsrule コマンドでエクスポートしたファイル(rule.txt)の内容が下記のような場合について説明します。



- ルールのエクスポートファイルは、1 ルールにつき全カテゴリの内容が表示されるため、各ルール最初の 1 行のみを記載しています。
- 「デフォルトで設定されているルール」は上記の 6 つのみですので、それ以外のルールは「お客様が追加したルール」となります。
- 作成したそれぞれのファイルで、1 行目には以下のヘッダをつけてください。(Ver7.0 の場合)
グループ名,ルール名,メインカテゴリ名,サブカテゴリ名,規制方法

■ ルールの追加フォーマット

amsrule -create ファイル名 -encoding EUC|SJIS|UTF8

■ ルール追加のコマンド実行例

InterSafe に「createrule.txt」を利用して、ルールを追加する場合

```
amsrule -create createrule.txt -encoding UTF8
```

[-create]オプションで使用するファイルの内容は、エクスポートファイルから「お客様が追加したルール」の最初の 1 行のみを抜き出して作成します。

createrule.txt ファイルの内容

グループ名,ルール名,メインカテゴリ名,サブカテゴリ名,規制方法

"alsi01","業務時間内","ユーザ設定","ユーザ設定 1","1"

"alsi01","業務時間外","ユーザ設定","ユーザ設定 1","3"

"営業部","営業用","ユーザ設定","ユーザ設定 1","2"

■ ルールの設定変更フォーマット

amsrule -mod ファイル名 -encoding EUC|SJIS|UTF8

■ ルールの設定変更コマンドの実行例

ルール変更時は、エクスポートファイルをそのまま利用してルールを変更することが可能です。

InterSafe に「rule.txt」を利用して、既に設定されているルールの設定を変更する場合

```
amsrule -mod rule.txt -encoding UTF8
```

■ 最低基準ルールの設定フォーマット

amsrule -standard ファイル名 true|false -encoding EUC|SJIS|UTF8

■ 最低基準設定の変更コマンド実行例

InterSafe に「standard.txt」を利用して、最低基準ルールを設定する場合

```
amsrule -standard standard.txt true -encoding UTF8
```

[-standard]オプションで使用するファイルの内容は、エクスポートファイルから最低基準ルールに設定したいルールの最初の 1 行のみを抜き出して作成します。

standard.txt ファイルの内容

グループ名,ルール名,メインカテゴリ名,サブカテゴリ名,規制方法

"alsi01","業務時間外","ユーザ設定","ユーザ設定 1","3"

amsschedule コマンド

InterSafe にデフォルトで登録されているスケジュールが含まれるインポート用のファイルを利用して、amsschedule コマンドでスケジュールを登録するとエラーになります。そのため、エクスポートファイルよりお客様が追加したスケジュールのみ抜き出してコマンドを実行する必要があります。また、デフォルトスケジュールを変更している場合は、別途スケジュール設定の変更を行う必要があります。

例えば、amsschedule コマンドでエクスポートしたファイル(schedule.txt)の内容が下記のような場合について説明します。

グループ名,スケジュール名,ルール所有グループ名,ルール名,デフォルトスケジュール指定,曜日,開始時刻,終了時刻	ヘッダ
"ルートグループ","デフォルトスケジュール","ルートグループ","DEFAULT RULE","1",,,	①デフォルトルールが設定されているスケジュール
"ADMIN","デフォルトスケジュール","ルートグループ","DEFAULT RULE","1",,,	
"GROUP","デフォルトスケジュール","ルートグループ","DEFAULT RULE","1",,,	
"LDAP","デフォルトスケジュール","ルートグループ","DEFAULT RULE","1",,,	
"未登録ユーザ","デフォルトスケジュール","ルートグループ","DEFAULT RULE","1",,,	
"alsi01","デフォルトスケジュール","ルートグループ","DEFAULT RULE","1",,,	②お客様が追加したスケジュール
"alsi01","デフォルトスケジュール","alsi01","業務時間内","0","MON/TUE/WED/THU/FRI","08:00","18:00"	
"alsi01","デフォルトスケジュール","alsi01","業務時間外","0","SUN/SAT","00:00","24:00"	
"営業部","デフォルトスケジュール","営業部","営業用","1",,,	③デフォルトスケジュールを変更しているスケジュール
"販売本部","販売本部","ルートグループ","DEFAULT RULE","1",,,	

④

- 作成したそれぞれのファイルで、1行目には以下のヘッダをつけてください。(Ver7.0の場合)

グループ名,スケジュール名,ルール所有グループ名,ルール名,デフォルトスケジュール指定,曜日,開始時刻,終了時刻

■ スケジュールの追加フォーマット

amsschedule -add ファイル名 -encoding EUC|SJIS|UTF8

■ スケジュール追加のコマンド実行例

InterSafe に「addschedule.txt」を利用して、スケジュールを追加する場合

```
amsschedule -add addschedule.txt -encoding UTF8
```

[-add]オプションで使用するファイルの内容は、エクスポートファイルから「②お客様が追加したスケジュール」のみを抜き出して作成します。②の中でルール名と曜日の間にある"0"はお客様が追加したスケジュールを示します。

addschedule.txt ファイルの内容

```
グループ名,スケジュール名,ルール所有グループ名,ルール名,デフォルトスケジュール指定,曜日,開始時刻,終了時刻  
"alsi01","デフォルトスケジュール","alsi01","業務時間内","0","MON/TUE/WED/THU/FRI","08:00","18:00"  
"alsi01","デフォルトスケジュール","alsi01","業務時間外","0","SUN/SAT","00:00","24:00"
```

■ スケジュールの変更フォーマット

amsschedule -mod ファイル名 -encoding EUC|SJIS|UTF8

■ スケジュール変更のコマンド実行例

InterSafeに「modschedule.txt」を利用して、スケジュールを変更する場合

```
amsschedule -mod modschedule.txt -encoding UTF8
```

[-mod]オプションで使用するファイルの内容は、エクスポートファイルから「③デフォルトスケジュールを変更しているスケジュール」のみを抜き出して作成します。③の中で5列目の"1"はデフォルトスケジュールであることを示しています。デフォルトスケジュールは初期値では①のように"DEFAULT RULE"が利用されるため、③はルールが変更されています。

modschedule.txt ファイルの内容

```
グループ名,スケジュール名,ルール所有グループ名,ルール名,デフォルトスケジュール指定,曜日,開始時刻,終了時刻  
"営業部","デフォルトスケジュール","営業部","営業用","1",,,
```

- ①は初期値より変更がないため、インポートする必要はありません。
- ④はデフォルトスケジュールのスケジュール名が変更されています。「グループ適用スケジュールと異なるスケジュール名の設定は、例外ユーザ用スケジュールとして登録されるため、スケジュール名を「デフォルトスケジュール」から任意の名称に変更されている場合、そのまま amsschedule -add を実行すると例外ユーザ用スケジュールに登録されます。お手数ですがインポート用のファイルのスケジュール名を「デフォルトスケジュール」へ変更後、コマンドを実行し、後ほど管理画面にて改めてスケジュール名を変更してください。

amsurl コマンド

エクスポートファイルをそのまま利用してインポートすることが可能です。

■ フォーマット

amsurl -import ファイル名 [-g グループ記述ファイル名または -all] -encoding EUC|SJIS|UTF8

- [-import]オプションを使用すると、指定されたファイルに記述されている例外 URL をインポートし、すべてのデータを入れ替えます。このとき、既に登録されている例外 URL はすべて削除されます。
- 実行時には[-g]オプションまたは[-all]オプションのどちらかを必ず指定してください。

■ コマンド実行例 1

InterSafeに「url.txt」を利用して、全グループに例外 URL を登録する場合

```
amsurl -import url.txt -all -encoding UTF8
```

■ コマンド実行例 2

InterSafeに「url.txt」を利用してシステム大学¥大学院¥情報処理研究室グループに登録されている例外 URL を登録する場合

グループ記述ファイルの内容

```
システム大学¥大学院¥情報処理研究室
```

```
amsurl -import url.txt -g gkijutsu.txt -encoding UTF8
```

amscatmsg コマンド

エクスポートファイルをそのまま利用してインポートすることが可能です。

■ フォーマット

```
amscatmsg -mod ファイル名 [-g グループ記述ファイル名] -encoding EUC|SJIS|UTF8
```

■ コマンド実行例 1

InterSafe に「catemsg.txt」を利用して、全グループにカテゴリ別規制メッセージを変更する場合

```
amscatmsg -mod catemsg.txt -encoding UTF8
```

■ コマンド実行例 2

InterSafe に「catemsg.txt」を利用して、営業部のグループにカテゴリ別規制メッセージを変更する場合

グループ記述ファイルの内容

```
営業部
```

```
amscatmsg -mod catemsg.txt -g gkijutsu.txt -encoding UTF8
```

amsgcatepostsize コマンド

エクスポートファイルをそのまま利用してインポートすることが可能です。

- amsgcatepostsize コマンドは、squid 版では使用できません。

■ フォーマット

```
amsgcatepostsize -mod ファイル名 -encoding EUC|SJIS|UTF8
```

■ コマンド実行例

InterSafe に「gcatepostsize.txt」を利用して、全グループにカテゴリ別書き込み規制サイズを変更する場合

```
amsgcatepostsize -mod gcatepostsize.txt -encoding UTF8
```

amsucatepostsize コマンド

エクスポートファイルをそのまま利用してインポートすることが可能です。

- amsucatepostsize コマンドは、squid 版では使用できません。

■ フォーマット

```
amsucatepostsize -mod ファイル名 -encoding EUC|SJIS|UTF8
```

■ コマンド実行例

InterSafe に「ucatepostsize.txt」を利用して、例外ユーザ用のカテゴリ別書き込み規制サイズを変更する場合

```
amsucatepostsize -mod ucatepostsize.txt -encoding UTF8
```

InterSafeWebFilter エクスポート/インポート手順 Ver5.0 - Ver7.0 用

2011年9月 初版

作成/発行/企画 アルプスシステムインテグレーション株式会社

〒145-0067 東京都大田区雪谷大塚町 1-7

※記載されている会社名および商品名は、各社の商標もしくは登録商標です。

- ・本書の内容は将来予告なしに変更することがあります。
- ・本書の内容の一部、または全部を無断で転載、あるいは複写することを禁じます。
- ・本書の内容については万全を期して作成致しましたが、万一記載に誤りや不完全な点がありましたらご容赦ください。